

# みんな で 生きる

No.451  
2017 子ども号

  
医療を通じて、愛を世界へ。  
公益社団法人  
日本キリスト教海外医療協力会  
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

1972年4月25日第三種郵便物認可 通巻451号  
2017年11月10日(増刊)

JOCSの活動を紹介します

カンボジア・健康教育をおこなっている  
小学校にて(撮影 事務局・松浦由佳子)



# はじめに

わたしがあなたがたを愛したように、  
あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハネによる福音書13章34節

これは、JOCSが大切にしている聖書のことばです。  
JOCSは、世界中の人たちが支えあい、  
みんなで生きていくことができる社会をつくりたいと願っています。  
そのために、困っている人たちやまずしい立場におかれた人たちの  
健康と命がまもられるように、保健医療の協力をおこなっています。  
そして、そのような人たちと、苦しみや悩み、喜びを分かち合いたいと願っています。

今回の子ども号では、そんなJOCSの活動をお伝えします。  
この号をとおして、JOCSの活動のこと、活動している海外の国々のこと、  
そこに住む人たちのことに、思いをよせてください。  
そして毎日の生活の中で、そのことを思い出してください。  
それが、JOCSが大切に考えている「みんなで生きる」ことにつながります。  
世界中の人たちが支えあい、みんなで生きる社会を、  
いっしょにつくっていきましょう。

2017年11月



協働プロジェクト  
(ケニア)



奨学生 (インドネシア)

奨学生 (タンザニア)



# みんな 生きる

2017年子ども号  
もくじ

はけん  
ワーカー派遣 ... 4



山内章子ワーカー (バングラデシュ)

しょうがくきん  
奨学金事業 ... 6

きょうどう  
協働プロジェクト ... 8  
プロジェクト・リトル



岩本直美ワーカー (バングラデシュ)

しょうぞ  
使用済み切手  
運動... 12



弓野綾ワーカー (タンザニア)



協働プロジェクト (カンボジア)

# ワーカー派遣

はけん

JOCSでは、アジアやアフリカの国々に、  
医師や看護師など保健医療にたずさわる人を、  
日本から派遣しています。

海外へ派遣する人のことを、JOCSでは「ワーカー」と呼んでいます。「ワーカー」とは、英語で「働く人」のこと。現地の保健医療施設の

人たちといっしょに働き、現地の保健医療の状況を良くしようと活動しているから、JOCSではそう呼んでいます。

現在は、バングラデシュで2人（看護師、理学療法士）、タンザニアで1人（医師）のワーカーが活動しています。

やまうちあやこ  
**山内章子**

バングラデシュ・理学療法士

障がいのある人たちに理学療法をおこなうとともに、現地の人に授業をして理学療法をおこなえる人を増やしています。



いわたなおみ  
**岩本直美**

バングラデシュ・看護師



知的な障がいをもつ人々とその生活をささげるアシスタントがともに暮らしている家「ラルシュ」で、みんなが地域の人たちと仲良くいっしょに暮らしていけるように支えています。

### 岩本さんに聞いてみました

- なぜ海外で働こうと思ったのですか？  
まずしい国の人たちが、つらい思いをしていることを知ったので。
- 子どものころは、どんな子だった？  
体が弱くておとなしい子でした。
- 子どものころの夢は？  
看護師さんになることでした。
- 今の生活で大変なことは？  
何かな？十分に満たされていますから。
- 今の生活で楽しいことは？  
ラルシュのみんなといっしょに過ごすこと。
- みなさんへのメッセージをお願いします。  
毎日たくさん遊んでください！

# ちいき 地域の人々とともに生きる

アジアやアフリカの国々には、日本のように病院や診療所などの保健医療施設がと

のっていないところが多くあります。そのようなところでは、体調が悪くなっても簡単に病院に行くことができないため、がまんしたり自己流で治そうとしたりして、症状を悪くしてしまうことがよくあります。そのため、日本だと治るはずの病気で命を失ってしまうこともあるのです。

また、「障がい」が悪いことだと誤解している人も多く、障がいのある人が差別されたりいじめられたりすることもあります。

このような状況を良くして、すべての人が健康でいられるように、みんなの命がまもられるように、JOCISは、必要とされているところにワーカーを派遣します。

ワーカーは、診察やリハビリテーションなど患者さんを診るほかに、現地のスタッフへ専門的な内容を教えたり、差別や偏見をなくすように地域の人たちに働きかけたりしています。



ゆみのあや  
**弓野綾**  
タンザニア・医師

病院で診察したり、病院のスタッフたちに医療技術を教えています。

### 弓野さんに聞いてみました

- なぜ海外で働こうと思ったのですか?  
両親が学校の先生で、家に来た留学生たちと会う機会が多く、知らない国に行きたいという、あこがれがありました。
- 子どものころは、どんな子だった?  
運動が苦手で、本を読み空想するのが好きでした。
- 子どものころの夢は?  
両親のように、学校の先生になりたいかったです。
- 今の生活で大変なことは?  
言葉や文化のちがいをわかり合うこと。
- 今の生活で楽しいことは?  
こちらの人といっしょに笑い、歌い、おどること。
- みなさんへのメッセージをお願いします。  
いろいろな仕事を見て、何が好きなのか考えてみてください。

### 山内さんに聞いてみました

- なぜ海外で働こうと思ったのですか?  
神様がわたしに命をあたえてくださった意味だと思ったから。
- 子どものころは、どんな子だった?  
内気で泣き虫だった。
- 子どものころの夢は?  
デザイナーか学校の先生になりたいかったです。
- 今の生活で大変なことは?  
みんなが助けてくれるので、大変になる前に解決してしまう。しいていえば、自転車がしょっちゅうこわれること。
- 今の生活で楽しいことは?  
毎日みんなと泣いたり笑ったりできること。
- みなさんへのメッセージをお願いします。  
わたしの尊敬するブラザー・フランクはおっしゃいました。だれかを幸せにすることを喜べる人は幸せです、と。

### りがくりょうほうし 理学療法士の仕事

病気やケガで体が動きにくくなった人たちに、どのように体を動かしたらよいか、動かせなくてもどのように工夫したら生活しやすくなるかを教えるのが、理学療法士の仕事です。 Bangladesh では、障がいのある人たちの数に比べて理学療法士の数が少なく、とくに、山内ワーカーのように農村部で活動している理学療法士は、少ししかいません。

# 奨学金事業

ちいき  
地域の人々の  
健康を守る

JOCSでは、保健医療ほけんいりょうに関わる人たちに、授業料じゅぎょうや教科書代などを「奨学金」として支援することで、医師や看護師などの保健医療者を育てています。とくに、都市ではなく地方の町で、まずしい人々や弱い立場におかれた人々の健康をまもるために働きたいという人を、奨学生として選んでいます。



奨学金で学んだ知識が  
安全なお産に  
つながっています。



シスター マグレス・ニャミズイ  
(タンザニア 聖ヨハネ・パウロII世病院)

資格しかくのない看護助手として働いていましたが、専門的な技術や知識ちしきを身につけて患者さんのために働きたいと思い、奨学金に応募おうぼしました。とくに妊娠にんしんしているお母さんの健康をまもり、無事に赤ちゃんを産んでもらえるよう、がんばっています。

「JOCSの奨学金で、看護師と助産師じょさんしになるための勉強をしました。今はカリウアという町の病院で働いています。タンザニアでは、赤ちゃんを産むときの事故じこが多く、お母さんや赤ちゃんが亡くなったり、赤ちゃんに障がいが残ってしまったりすることがあります。助産師の勉強をしたことで、そういった事故たいおろに対応できるようになりました。無事にお母さんが出産できて、元気な赤ちゃんが生まれたときには、



これからももっと勉強して、お母さんと赤ちゃんの命をまもっていきたいと思います。そして、私が学んだことを周りの人たちにも伝え、みんなの技術や知識ちしきも向上させていきたいです。」

とてもうれしいです。私が経験けいけんした出来事についてお話しします。ある夜、私は病院で夜間の当番をしていました。すると、200キロもはなれた村から妊娠にんしん9カ月のお母さんが運ばれてきました。病院に着いた時、お母さんの意識いしきはなく、けいれんをおこしていました。それに対処たいしょできる注射薬ちゅうしやくが病院にはなく、またお母さんは自分で薬を飲めない状態じょうたいでした。そのため、舌したの下に薬をおくという方法で薬をのませ、その他の手当てあててをしました。しばらくすると、症状しょうじょうがよくなり、意識ももどりました。その後、このお母さんは無事に出産し、退院たいいんすることができました。

このような対処の方法は、以前は知りませんでした。奨学金を得て学んだからこそ知ったことでした。

アジアやアフリカの国々では、医師や看護師など保健医療者の数が足りない、いても十分な技術や知識がないなどの問題がたくさんあります。

とくに、都市からはなれた地方の町では、保健医療者の不足が大きな問題となっています。保健医療者が足りないと、具合が悪くても診察してもらえなくて病気がさらに悪くなってしまうたり、出産のときにお母さんや赤ちゃんが命をおとしたり、人々が健康に生きることをむずかしくする、さまざまな問題が起こります。

保健医療者の数が足りないのは、専門的な勉強をするにはとてもお金がかかり、そのお金を用意することができない人が多いからです。また、なんとかお金を用意できて勉強できても、卒業後にはゆたかで便利な都市部で働くことを選んでしまう人が多いため、地方の町で働く保健医療者の数は足りません。

このような状況をよくするためには、JOCsでは、奨学金で地方の町の保健医療者を育てようとしています。

**奨学金でどのような勉強をしているのですか？**

医師や看護師、助産師の勉強をする人が多くいます。

日本とちがいで、看護学校をでていなくても、短期間の研修を受けるだけで「看護助手」として働くことができる国もあります。しかし看護助手はむずかしい症状に対応できないため、看護学校で専門的な勉強をした看護師が必要になるのです。

また、ウガンダやタンザニアなどアフリカの国々では、マラリアという病気が多くみられます。治る病気ですが、発見がおくれると死んでしまうこともあります。そのため、マラリア検査をする技術になる勉強をする人もいます。

**勉強には、どのくらいのお金が必要なのですか？**

学費は国や勉強の内容によってちがいます。たとえば1年間の学費は、インドネシアで助産師になるための学校では約5万円、ウガンダで医師になるための学校では約10万円です。

**JOCs奨学金のしくみ**

奨学金で勉強したい人から応募書類が届きます。

医師や看護師などのJOCsの専門家たちが審査し、合格者を決めます。

合格者に、学校書類などを提出してもらいます。

奨学金を送ります。毎年、勉強が順調に進んでいるか報告してもらいます。

2~3年に一度、JOCsのスタッフが、奨学金で勉強した人たちに会いに行き、元奨学生の活躍を見て、励まして来ます。

**ウガンダから！**

小さな診療所で、村の人たちのために働いています。忙しいですが、地元の人に医療をとどけられるので、とてもやりがいがあります。



**ムレレ・ネルソンさん**  
(ウガンダ 看護師)

2015年から2017年まで奨学金で看護学校に通い、看護師になりました。となりの国との国境に近い村の診療所で働いています。

まずしい人からは診察代や薬代をもらっていません。診療所に来ることができない人たちのために、自分で村々を回って診療してあげたいです。



**ソックリー・チャンさん**  
(カンボジア 医師)

2003年から2010年まで奨学金で学び、医師になりました。現在は自分の生まれ育った町で診療所を開いています。

**カンボジアから！**

# 1 シロアムプロジェクト (ケニア)

子どもはみんな大切な命をあたえられて、この世に生まれます。それは日本でもケニアでも、障がいがあってもなくても、同じこと。

J O C Sではケニアで、大切な命をあたえられた子どももなかでも、特に障がいのある子どものためのプロジェクトを、「シロアムの園」という現地の団体(だんたい)といっしょにおこなっています。それは、ケニアでは障がいのある子どもが多く、まずしい暮らしのなかで生きていくことがとても大変だからです。

ケニアでは日本以上に障がいのある人への差別があります。障がいのある子やそのお母さんはいじめられたり、家族からも冷たくされたり、泣きながら暮らしている人もいます。

シロアムの園には、そのような障がいのある子どもたちとお母さ

# 協働プロジェクト

## プロジェクト・りとる

現地の人々や団体と話し合っ  
て活動の目標と内容を決め、  
協力して行う保健医療のプロジェクトです。



シロアムの園での「朝の始まりの会」

んたちが通ってきます。朝は、みんなでいっしょに歌い、おどり、そして神様においのりをします。それからクラス活動の時間になります。体を動かしたり、お絵かきや絵本読みをしたり、砂場やブランコで遊んだりします。子どもたちは楽しく遊んでいるだけのようにはありますが、理学療法や勉強になっっている面もあります。

JOCSは、シロアムの園のスタッフたちといっしょに、子どもたちに合った活動内容を考えたり、そのための教材を作ったり、子どもたちを指導するスタッフを育てたりしています。

それまで家の中で、ただじっとしていた子どもたちが、シロアムの園に来るようになって大きく変わりました。まわりのお友達の顔をみて、笑ったりおこったり、やさしくなであげたり、いろいろな表情が出てくるようになりました。歩けなかった子が歩きだし、お話できなかった子がお話をし、歌を歌うようにもなりました。そんなわが子を見て、お母さんたちもとても喜んでいきます。今ではみんな、シロアムの園に来るのを楽しみにしています。

## 子どもが持っている良いところを伸ばせるように支えていきたいです。

シロアムの園スタッフ エリザベス先生

親せきに障がいのある子がいました。私はいつもその子のことが気になっていました。神様に大切につくられたその子が元気で育ってほしいと思っていましたが、残念ながらその子は昨年亡くなりました。でもその子がいてくれたから、今、私はここにあります。

大学を卒業した時、その子と同じような障がいのある子の役にしたいと思い、シロアムの園で働くことにしました。私はここに来て、子どもたち一人ひとりの様子をよく見て、声をかけながら活動を進めることを学びました。それぞれの子どもが持っている良いところを伸ばすために何をすればよいのか、日本から来たJOCSの専門家に教えてもらいました。ケニアには、障がいのある子どもたちにこのようにていねいに接している団体は、ほかにないと思います。



エリザベス先生

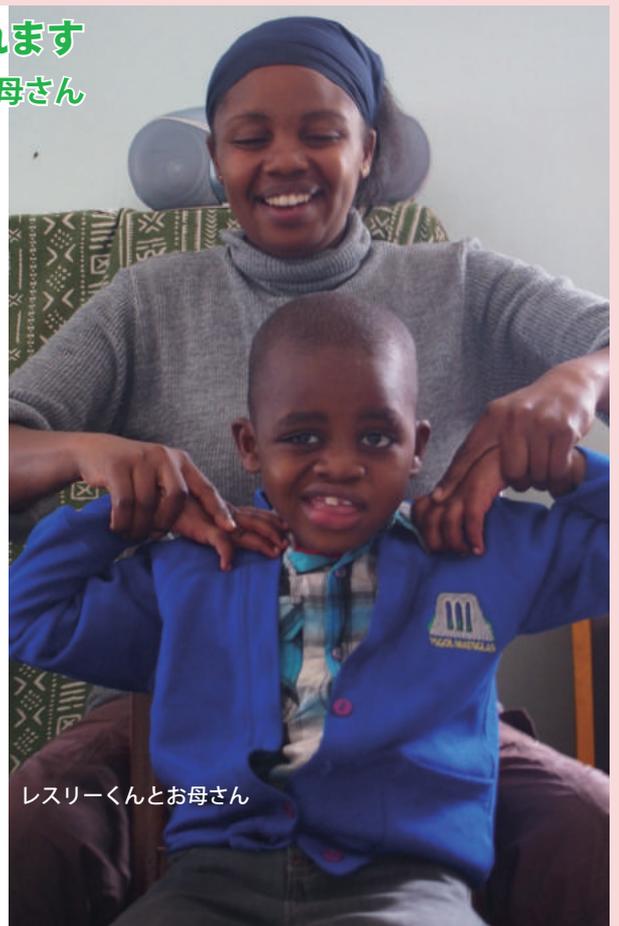
## 障がいのあるレスリーが、私を笑顔にしてくれます

シロアムの園に通うレスリーくんのお母さん

旧約聖書にこんな言葉があります。「主(神様)は言われる、わたしがあなたがたに対してにしている計画はわたしが知っている。それは災いを与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。」(エレミヤ29章11節 口語訳)

ある時、レスリーくんのお母さんはこの言葉をみんなの前で読み、こう話してくれました。「私のもとに障がいのあるレスリーが生まれたことは、災いではなく、恵みと希望に満ちた神様の平和が実現するためなの。このレスリーが私を笑顔にしてくれる希望なのよ。神様に感謝しています」

シロアムの園では、子どもたちの活動の間、お母さんたちが集まって賛美の歌を歌い、おいのりし、おしゃべりし、手芸をします。ここに来る前は、自分の子どもにどうしてあげたらいいのかわからなくて、怒り、悲しくて泣いていたお母さんもいます。そんなお母さんが、だれにも言えなかった自分の気持ちをほかのお母さんに少しずつ話すようになり、話を聞いてもらって、いっしょに泣き、いのり、ただいっしょに過ごすうちに、やさしく、かがやく笑顔になっていきます。



レスリーくんとお母さん



# プロジェクト・りとる 協働プロジェクト

2 ソルト  
**SALT**  
プロジェクト  
(カンボジア)

大きな口のもけいを使って、  
授業で歯みがきを習いました。  
上手にみがけるかな？

※NCC教育部様とともに、SALTプロジェクトの紙しばいを作りました。JOCS東京事務局までお問い合わせください。

毎年寒くなるとインフルエンザがはやりますね。みなさんは、インフルエンザにかからないために、なにをしますか？予防注射よぼうちゅうしやを受けましょう、うがいや手洗いあひをしましょう、などと、よく言われるのではないのでしょうか。

また、身のまわりをきれいにしましょうとか、毎日きちんと歯をみがきましょう、ツメを短く切りましょう、とも言われませんか？

このようなことは、健康に暮らすために大切なことです。でも、このことを知らないで育つ子どもたちも、たくさんいるのです。

カンボジアでは、お金持ちの人とまずしい人の差が広がっています。まずしい人たちの多くは、健康に生活するために何をしたらよいのかわらなかつたり、知っていても実行するのがむずかしかつたりします。そのため、JOCSでは、カンボジアのバタンバン州にある小学校11校で健康教育を、中学校9校で思春期教育ししゆきやうの授業をしています。この授業で初めて歯みがきを教わった子どもたちもいます。

カンボジアの子どもたちが元気に成長すること、それがJOCSの願いです。



## 授業をとおして、子どもたちが 「健康」について考えるようになりました。

クダオン小学校 サムナン校長先生

クダオン村には約350家族が住んでいます。村の大人の多くは、となりの国、タイに出かせぎに行っています。だからこの子どもたちの多くは、おじいちゃん、おばあちゃんといっしょに暮らしています。

この村の子どもたちは、家にお父さんやお母さんがいないので、代わりに家事をしたり、弟や妹の面倒をみたり、学校がおわったあとも、やることがたくさんあります。だから、つかれて授業中にねむくなってしまうたり、なかなか授業に集中できない子どもも多いようです。でもみんな、がんばって勉強していますよ。

SALTプロジェクトが始まって、授業で健康について学ぶようになってから、子どもたちは自分で健康に気を使うようになってきました。家の人たちもそのことを喜んでいてます。

最近、この村ではデング熱\*がはやっています。でも多くの子どもたちはデング熱の予防法や治療法を知りませんでした。授業でそういったことを習うことができ、子どもたちのためになっています。

\*デング熱とは、熱帯・亜熱帯地域に多くみられる、蚊にさされることによってかかる病気です。重症化すると死にいたる場合もあります。



## 子どもが楽しみながら 学べる授業をめざしています。

プロジェクトスタッフ イン先生



SALTプロジェクトのスタッフとして小中学校をまわり、授業をしています。今年は11の小学校をまわりました。学校によっては字が読めない子どもも多く、イラストや写真を使ったり、歯みがきや髪を洗う実習をいっしょにやりながら、子どもたちに、健康でいるために大切なことを教えています。歯みがきのときは、「歯みがき歌」を歌って、みがく順番を覚えています。都会では歯みがきはあたりまえの習慣になってきていますが、バタンバンの農村では、授業で初めて歯をみがく子どもたちがたくさんいるんです。

子どもたちが楽しく学び、学んだことを家でも自分でできるように、授業をしていきたいと思っています。



# 使用済み切手運動

郵便屋さんがとどけてくれる郵便物。

あなたのお家にはどんなものが、とどきますか？

その郵便物に、切手ははつてありますか？

もし切手がはつてあつたら、チャンス！

捨てないで、切り取つておいてください。

切手をJOC Sに送ることで、あなたも、

アジア・アフリカの人に健康をとどけることができます。

## なぜ使用済みの切手なのに役立つの？

「使用済み切手」を集めているコレクターさんがたくさんいるからです。JOC Sでは、集まった切手をコレクターさんたちに買いつつてもらい、そのお金を保健医療協力のために使っています。「JOC Sの使用済み切手がほしい」というコレクターさんが、送ってもらう順番を待っています。

ではコレクターさんたちは、なぜ使用済み切手を集めているのでしょうか。集めた切手をどうするのでしょうか？

コレクターさんによって、集め

る目的はさまざまです。好きな切手の図柄を集める人、はり絵の材料にするために切手の色に注目して集める人、消印の日にちや地名を集める人。いろいろな集め方がされています。たとえば、日本中すべての郵便局名の消印を集めようとしているコレクターさんや、パンダの図柄の切手を集めているコレクターさんもいます。

そのためJOC Sは、普通切手も記念切手も、外国の切手も、どんな切手でも集めているのです。

### 使用済みの切手って？

切手の左下に「エソカンソウ・北海道」と書かれています。これは、1999年に発行された「北のロマン・花木」というシリーズの切手です。

2014年に発行された切手。定形郵便物が82円に値上げされたとき、新たに発行されました。「エソユキウサギ」という、北海道にいるウサギの絵がえがかれています。



切手

切手

けいん  
消印

切手の  
ギザギザ

切手のフチの白い部分。切手は大きなシートで印刷されています。そのシートから切手を一枚一枚切り離すのに便利のように、このギザギザがつけられています。ギザギザがきれいに残っていることも、いい切手の条件です。

消印とは、切手を使ったしるしとして郵便局でおされるスタンプのことです。これには「福島中央 29.8.3 18-24」と印字されています。これは、29年(2017年)8月3日の18時から24時の間に、福島中央郵便局で消印がおされたことを示しています。

使用済み切手から、いろいろなことがわかります。あなたも、使用済み切手をさがして、見てみましょう。

# 使用済み切手を 集めてみよう

## キャラクターの 切手



青色の切手

## 動物の切手



水の中の生き物

# 使用済み切手運動の 始まりの物語

JOC Sの使用済み切手運動は、  
どのように始まったのでしょうか？  
始まりの物語を、のぞいてみましょう。

1960年、戦争が終わって15  
年がたち、日本の人々の心には、  
ようやく平和がもどってきました。

でも、アジアの国々はまだまだ  
まずしくて、お医者さんも少しし  
かいませんでした。そのため、病  
気になってもお医者さんに診ても  
らえない人がたくさんいました。

それを知った日本のクリスチャ  
ンのお医者さんたちが、その人た  
ちのために何かできないかと話し  
合いを始めました。それがJOC  
Sの始まりです。

JOC Sのお医者さんたちは、  
日本の医者や看護師たちに、アジ  
アの国に応援に行ってもらうこと  
を考えました。でも、そのために  
は、診療に使うものをそろえなく  
てはなりませんし、飛行機代や生  
活費も必要です。そのためにみん



なでお金を集めようとした  
が、なかなか集まりませんでした。  
あるJOC Sのお医者さんが、  
ヨーロッパの教会で使用済み切手  
を集めてお金にかえているという  
話を耳にしました。それを自分た  
ちもやってみよう、と使用済み切  
手を集める運動を始めました。  
1964年のことです。



このお話は、紙しばいとしてJOC Sホーム  
ページからダウンロードできます。

## 切手をどのくらい集めると、 どのくらい役に立つの？

使用済み切手が1箱（7.5キロ、約38,000枚）集まると、  
14,000円のお金に換えられます。切手3枚くらいで1円になる計算です。  
このお金は、アジア・アフリカの保健医療協力のために、  
どのような役に立つのでしょうか？



使用済み切手

約**400**枚（約80グラム）で

カンボジアの子ども1人に、  
歯みがきセットを配布できます



使用済み切手

約**5,000**枚（約1キロ）で

タンザニアの看護学校で、  
1人が1年間勉強するための  
教科書代になります



使用済み切手

約**7,500**枚（約1.5キロ）で

Bangladesh の看護学校で、  
1人の1カ月分の授業料になります



使用済み切手

約**18,000**枚（約4キロ）で

ウガンダの助産師学校で、  
1人の半年分の実習費になります



「使用済み切手200枚でBCGワクチン1本が買えるんです。ネパールの人たちのために使用済み切手を集めてください！」

そこで岩村先生は自分で日本全国を回りました。

「そのころ、JOCsからネパールに送り出されていたお医者さんの岩村昇先生は、ネパールで結核という病気にかかる人が多いことに困っていました。BCGというワクチンを注射すれば結核にかかる人をへらせるのですが、ワクチンを買うにはお金が必要です。岩村先生は、日本中の人に使用済み切手を集めてもらって、そのお金でワクチンを買うことを考えました。」

この話を聞いて、日本中の多くの人々が使用済み切手を集めてくれるようになりました。そのおかげで、岩村先生はワクチンをたくさん買うことができたのです。



「ネパールのみなさん、結核にかからないための注射ですよ。集まってください！」岩村先生の呼びかけに、長い列ができました。

岩村先生の注射のために、ネパールで結核にかかる人はぐんぐん少なくなりました。使用済み切手運動が、ネパールの人たちの健康のために役立ったのです。

今、JOCsではBCGのための活動はおこなっていませんが、今でも使用済み切手運動は、アジア・アフリカの国々で、人々の健康のために役立っています。

**ボランティア体験のご案内**

切手にかかわるボランティア作業の、小学生・中学生の一日体験を受け付けています。  
詳しくは、東京・関西の事務局へお問い合わせください。

**切手収集BOX さしあげます。**



使用済み切手の収集箱ができました。ご希望の方にお分けしています。東京・関西の事務局へご連絡ください。(10こまで無料でお送りします)

**JOCsに届いた  
使用済み切手の  
ゆくえ**



ボランティアさんが荷物を開けて、切手や外国コイン、ハガキなどを分けていきます。

箱につめられた使用済み切手。これから、コレクターさんへ送られます。



毎日、全国から、たくさんの使用済み切手などが、とどきます。



アジア・アフリカの人々の健康のために  
**使用済み切手の収集にご協力ください**

**切り方**

封筒やハガキにはってある切手を、周りの紙を約1cm残して切ってください。消印が残せそうであれば残してください。切手をはがす必要はありません。

**お願い**

封筒の切手の裏側の紙は、切り取ってください。

**注意** してね

このような切手は取りのぞいてください。

- ✗ やぶしたもの
- ✗ 折ったもの
- ✗ 汚れたもの
- ✗ まわりのざざざの穴けたもの

**送り方**

- 外国のものと日本のものに分けてお送りください。
- 記念切手と普通切手を分けたり、枚数を数えたりする必要はありません。

**ほかにも集めています。**

- 外国のコインやお札
- 書き損じハガキ
- 未使用切手(古いものでも構いません)
- 古銭(古いお金)・記念コイン

**使用済み切手の送り先**

〒169-0051  
 新宿区西早稲田2-3-18-51  
 JOCS東京事務局 切手部

〒530-0013  
 大阪市北区茶屋町2-30  
 JOCS関西事務局

**公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会**  
<http://www.jocs.or.jp>

- 東京事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-51  
 電話:03-3208-2416 FAX:03-3232-6922
  - 関西事務局 〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30  
 電話:06-6359-7277 FAX:06-6359-7278
  - E-mail info@jocs.or.jp
  - 編集発行人 代表者 畑野研太郎
  - 編集長 森田隆 (JOCS事務局長)
  - イラスト 石橋えり子 柏木牧子
  - 誌代 1部300円(送料込)
- JOCS会員は会費の中に本誌購読料が含まれています。また年間1万円以上(購読料含む)の寄付をしてくださった方にお送ります。
- 郵便振替口座番号 00170-1-20920

**事務局便り**

今回はJOCSの活動をご紹介します。日本にも、さまざまな人が住んでいて、それぞれの生活のしかたや宗教や決まりごとがあります。自分とちがうところもあるけれど、みんな、家族やお友だちと、わらったり泣いたり、あそんだり勉強したりして、自分と同じくもたくさんあります。自分とちがうことをきらうのではなく、おたがいを大切にして、みとめあい、たすけあいながら、いっしょに生きていって、みんなが笑顔の世界をつくっていきましょう(高橋)